



特定非営利活動法人
日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス

2021年度 活動報告書

E-mail : info@janppplus.jp
WEB : <http://www.janppplus.jp>

活動目的とミッション

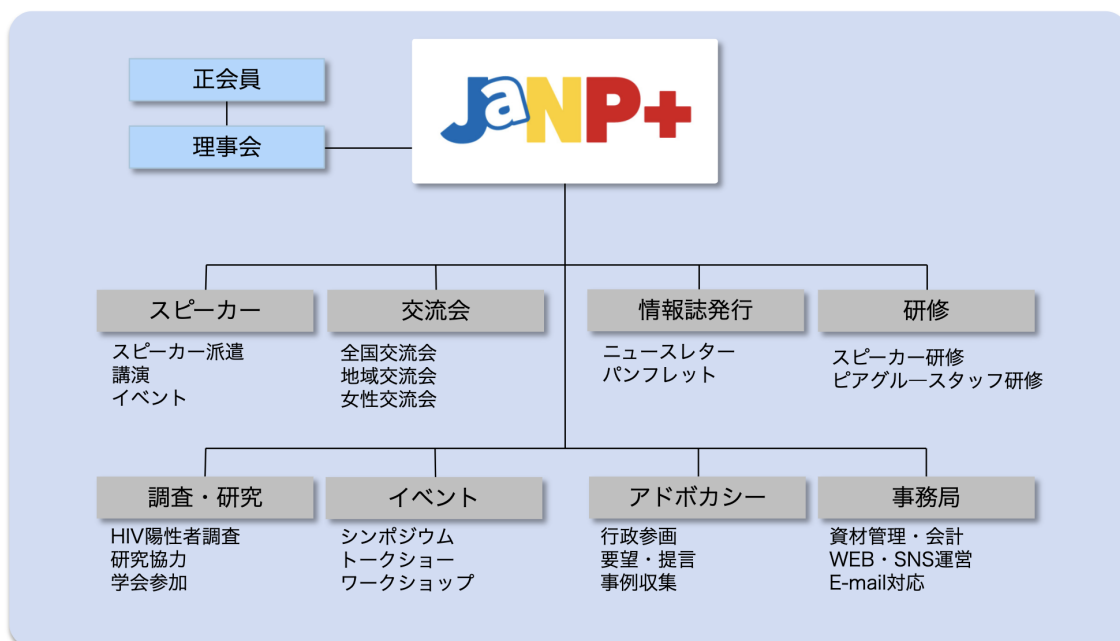
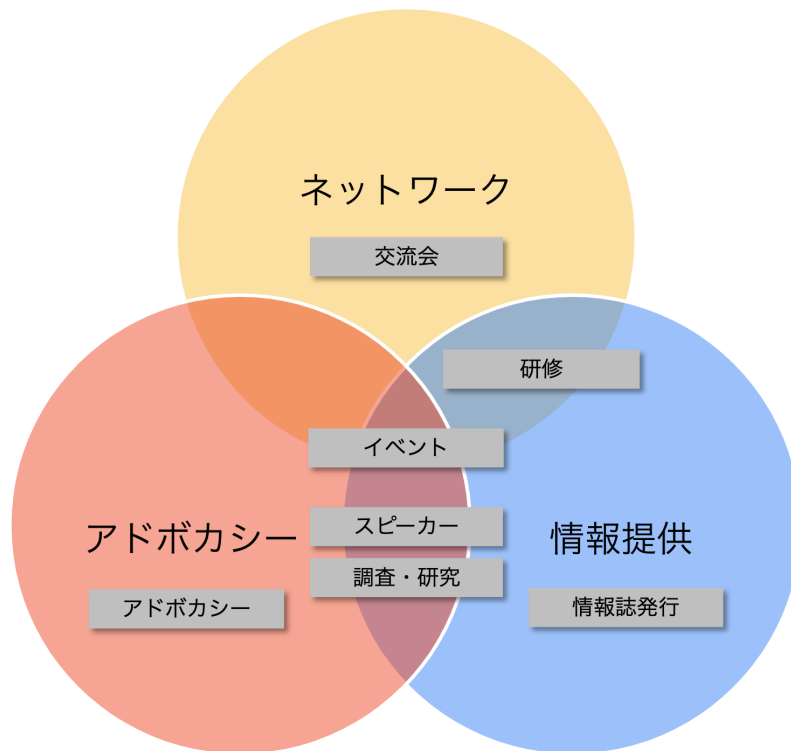
JaNP+の活動目的

HIV陽性者が秘密を抱えることもなく、社会的な不利益を受けることもなく、HIV陽性者として、自立したあたりまえの生活ができる社会を目指します。

JaNP+のミッション

1. 情報提供活動
医療、福祉、保健、政治などの幅広い分野から、HIV陽性者の生活に関する情報を、HIV陽性者独自の視点で選び、伝えています。
2. アドボカシー活動
社会に根強く残るHIV/AIDSへの偏見や差別をなくし、HIV陽性者であることから生じるさまざまな不利益をなくすよう、社会に働きかけています。
3. ネットワーク事業
国内外のHIV陽性者グループと、交流や情報交換を行います。多くのグループが連携、協力しあうことで、より大きな声へと変えていくことが可能となります。

3つのミッションと各プロジェクト



HIV陽性者スピーカー派遣

HIV・エイズに対する偏見へのおそれから、HIV陽性者が自身の感染の事実を周囲の人に伝えることはハードルが高く、慎重にならざるを得ません。当事者からすれば「言わなければ分からない」ので、伝えなければならない相手や状況も限られます。

しかし、HIV陽性者と実際に対面したり、話を聞いたりする機会がなければ、多くの人々にとってHIV・エイズは「他人事」のままです。このままでは、HIV・エイズに対する恐怖や不安などの過剰なネガティブ・イメージは変わらず、偏見や差別の問題はいつまでも解消されないという悪循環が続くこととなります。

実際、HIV陽性者の中には、自分のできる範囲で身近な人たちにHIV陽性であることを伝えている人も少なくありません。そして伝えられた人は、その時点で初めてHIVを「身近な問題」として認識し、自分が抱いていた従来のHIV・エイズやHIV陽性者に対するイメージが変わるきっかけを得ています。

こうした小さなカミングアウトを積み重ね、リアリティを広げていく取り組みが、HIV陽性者スピーカー派遣活動です。自身がHIV陽性者であることをオープンにできる人は決して多くありませんが、JaNP+のスピーカーは、テレビや新聞などのメディアだけでなく、講演会や研修会、少人数の集まり等を通じて、全国各地で等身大の語りを提供しています。

派遣実績

2021年度は、計15件の派遣依頼に応じ計8名のHIV陽性者スピーカーを派遣し、合計で約2,200名の方に聴講していただくことができました。コロナウイルスの影響によりイベントの件数は多くないものの、オンラインの活用が進んだことで前年より多くの方にお話を聞いていただく機会を得ることができました。

<派遣実績詳細>

日付	依頼主体	催事名
2021/06/10	岐阜県立各務原西高等学校	性教育講話
2021/06/16	名古屋市教育委員会生涯学習課	人権問題講座
2021/08/20	公益財団法人エイズ予防財団	令和3年度HIV検査相談研修会
2021/09/13	ヴィーブヘルスケア株式会社	アドバイザーボード会議
2021/09/15	ヴィーブヘルスケア株式会社	陽性者インタビュー撮影
2021/10/06	一般社団法人 部落解放・人権研究所	人権啓発東京講座
2021/10/06	国立保健医療科学院	令和3年度エイズ対策研修
2021/10/09	認定NPO法人AIDSネットワーク横浜	第29期AIDSボランティア学校
2021/10/31	NPO法人シェア	課題別派遣前訓練(エイズ対策)
2021/11/16	大阪医療センター	HIV/AIDS看護師研修会(初心者コース)

2021/11/22	ヴィーブヘルスケア株式会社	第35回日本エイズ学会シンポジア
2021/11/23	ヴィーブヘルスケア株式会社	第35回日本エイズ学会シンポジア
2021/12/01	日本聖公会東京教区人権委員会	第27回世界エイズ・デー礼拝
2021/12/06	山梨県	令和3年度エイズ知識普及啓発講習会
2021/12/22	杏林大学保健学部看護学科	公衆衛生看護活動論 I

HIV陽性者交流会

HIV陽性であることをオープンにしづらい日常生活において、他の陽性者と知り合い話せる機会は、なかなかありません。特に首都圏以外の地域では、その傾向は強くなります。

このためJaNP+では、交流会の自主開催や地域の当事者グループへの支援を通じて、一定の安全性が確保されたHIV陽性者の交流機会を提供することで、当事者どうしのネットワークづくりに取り組んでいます。

開催実績

2021年度もコロナウイルスの影響により前年に続き交流会の開催を見合わせておりましたが、2022年3月に仙台・広島で再開を計画しました。

仙台は残念ながら参加者が集まらず中止となりましたが、広島では5名の参加がありました。

当事者の立場で様々な活動を行うためには、その裏付けとなるHIV陽性者の現状やニーズを論理的・客観的に把握する必要があります。JaNP+では、ミッションに照らして重要な調査や研究について、積極的に参加・協力しています。

HIV Futures Japanプロジェクトへの参加協力

HIV Futures Japanプロジェクトは、HIV陽性者の「自分らしくより健康的な生活の実現」と「暮らしやすい社会環境づくり」を目的とした当事者参加型です。



HIV陽性者を対象としたWEBアンケート
URL <http://survey.futures-japan.jp/>



HIV陽性者のためのポータルサイト運営
URL <http://futures-japan.jp/>

このプロジェクトには、全国各地からHIV陽性者が参加する「レファレンスグループ」が設置されており、調査の実施やサイト運営について当事者の意見を積極的に取り入れています。JaNP+は、これまでの活動によって培ったネットワークをもとに、レファレンスグループの運営に協力しています。また、代表理事の高久はプロジェクト全体の意思決定を担うステアリンググループのメンバーとして参加しています。

2021年度は、本調査の今後の展開についてステアリンググループにて検討を行い、調査実施の頻度について、これまでの3年毎から5年毎に変更することを決定しました。

<活動実績>

日付	内容
9月21日	ステアリンググループ会議

その他の研究協力

2021年度は下記研究において研究協力者としてJaNP+の高久が参加しました。

- エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」(研究代表者:金子典代)
- エイズ対策政策研究事業「エイズ予防指針の施策実施の評価と課題抽出に関する研究」(研究代表者:白阪琢磨)
- 厚生労働省科学研究費補助金行政施策研究分野「臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業」(研究代表者:山口拓洋)

日本エイズ学会

代表理事の高久が日本エイズ学会の理事として理事会に参加しています。

JaNP+は、HIV陽性者の権利擁護と行政等への参加・意見反映といった観点から、HIV陽性者の視点・立場からのエイズ対策へのより積極的な関与を活動の柱としています。

広い意味ではJaNP+の活動は全てアドボカシーにつながっていますが、ここでは特に政府および行政への働きかけや協働、メディア対応についてご報告します。

行政・団体・企業

<活動実績>

- 東京都エイズ専門家会議委員(高久)
- ギリアド・サイエンシズ「GAP6」プロジェクト・アドバイザー(高久)
- 部落解放・人権研究所主催「差別禁止法検討会」参加(高久)